

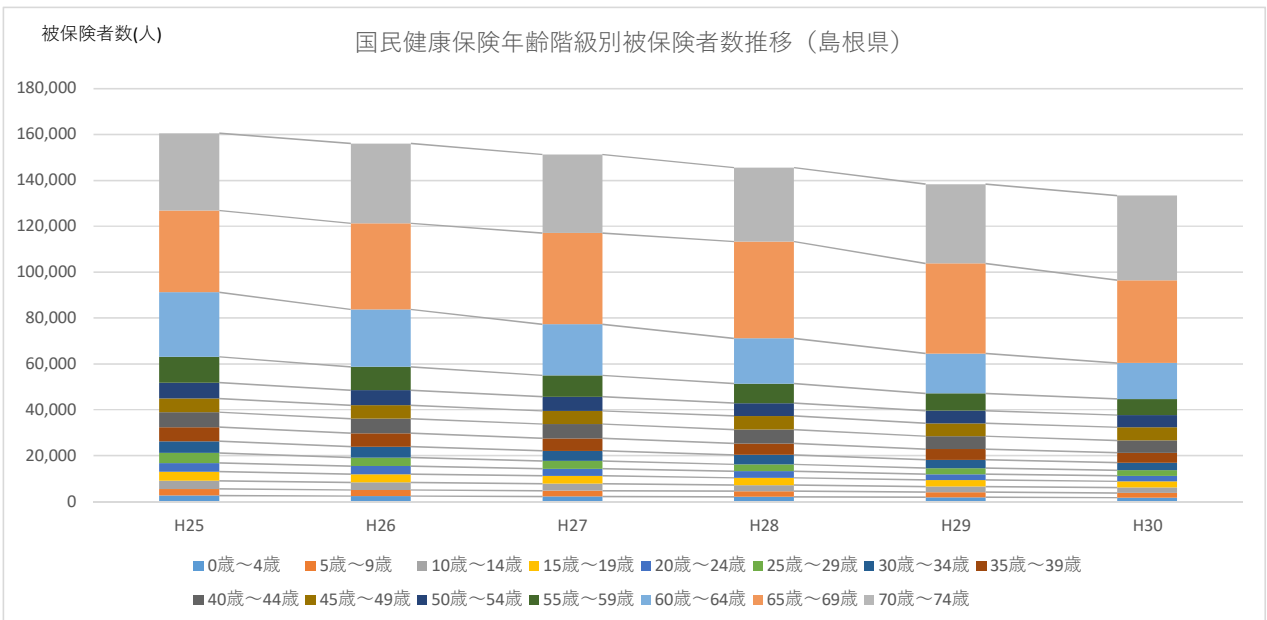
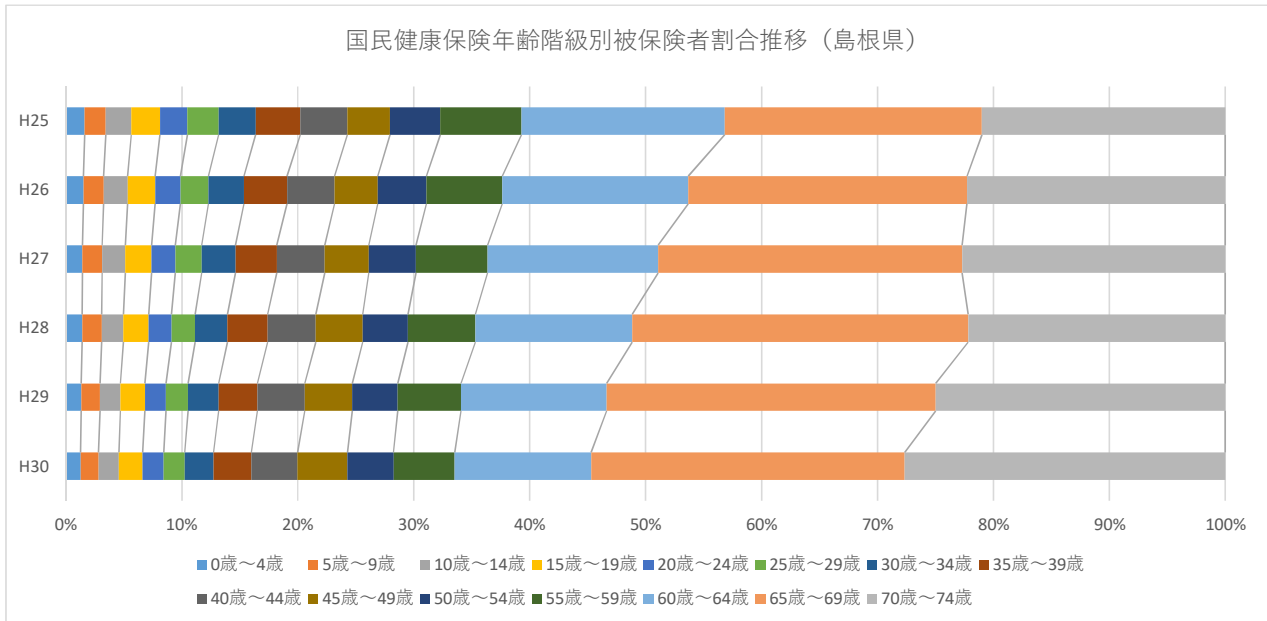
被保険者数と年齢構成の医療費との関係

(1) 国民健康保険

国民健康保険の被保険者の年齢階層は60歳以上の被保険者数特に65歳以上の割合が急激に高くなっており、1人当たりの医療費が急激に高くなるこれらの年代の割合が高くなることで、全体の1人当たり医療費は年々増加する傾向にある。

これに対して、被保険者数は年々減少しており、この減少割合と年齢構成の高齢化による1人当たりの医療費の増加割合により医療費が増減する。H27年度以降は被保険者数減の割合が高く医療費が減少しているが1人当たりの医療費増により被保険者数の減少ほどは減少していない。

また、全国と比較した場合、島根県が年齢の高い階層の割合が高いため1人当たりの医療費は高くなる傾向がある。



年度	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
国民健康保険医療費(千円)	63,614,600	63,991,513	65,717,832	63,216,423	61,942,298	61,034,533
年度平均被保険者数(人)	160,591	156,161	151,537	145,416	138,672	133,615
被保険者1人当たり医療費(円)	396,128	409,779	433,675	434,728	446,682	456,794

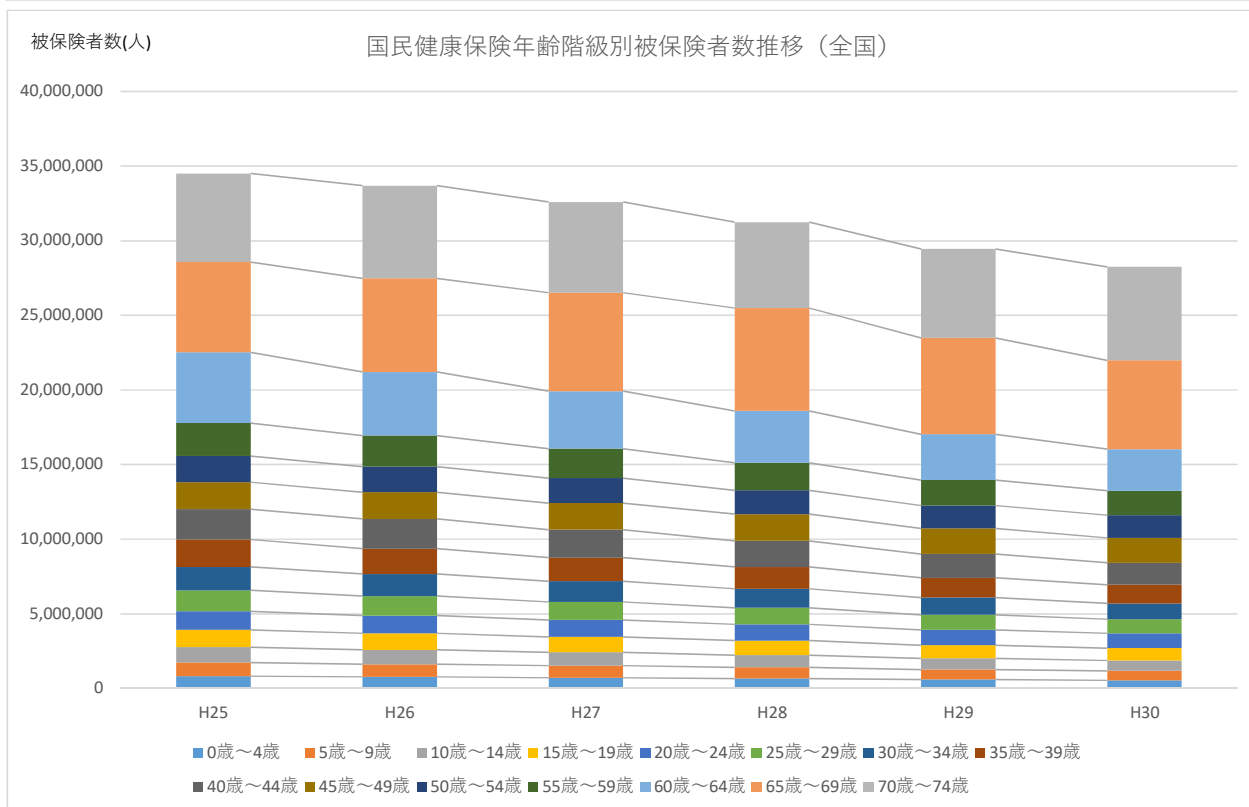
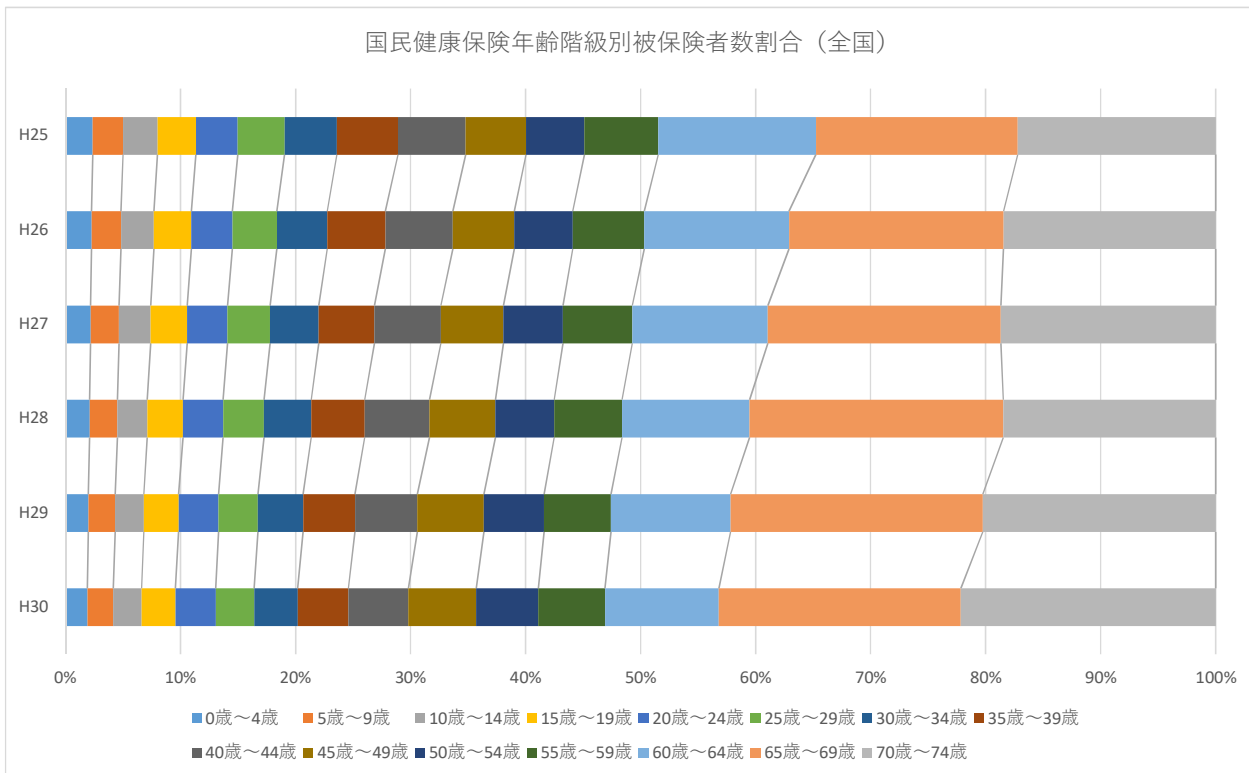
※出典「国民健康保険事業年報」

※表中縦線のうち二重線がある年度間で診療報酬改定あり

診療報酬改定

診療報酬改定

< 参考 >

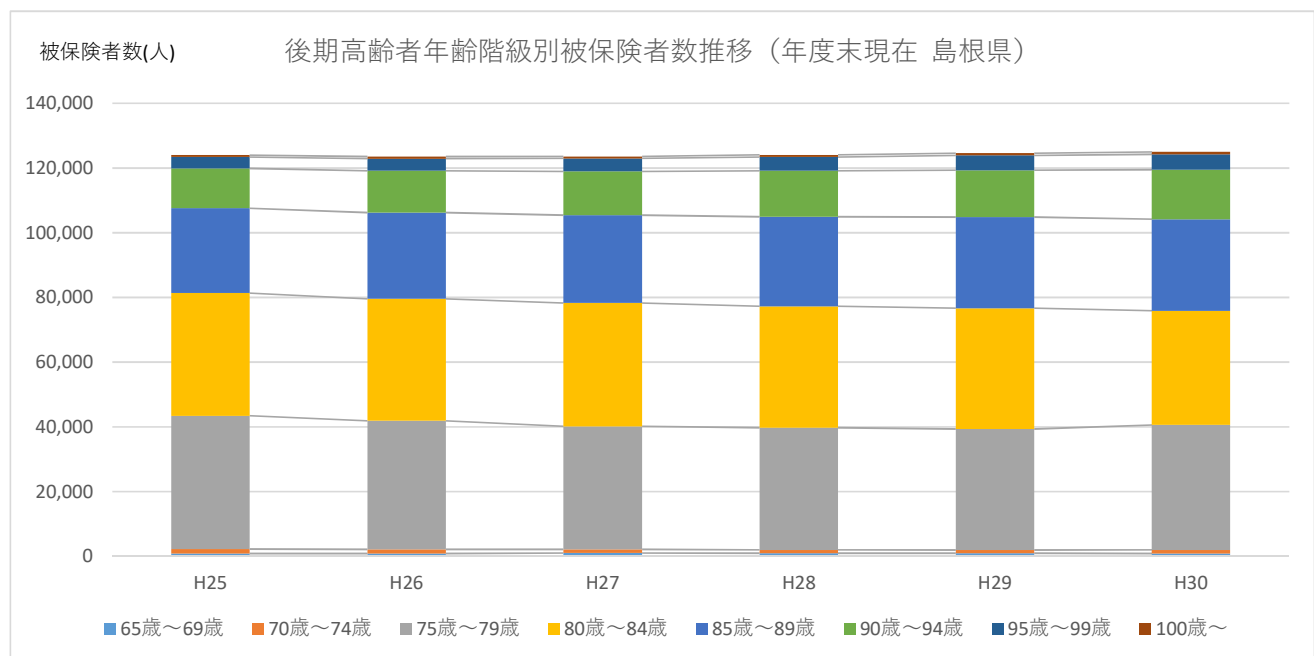
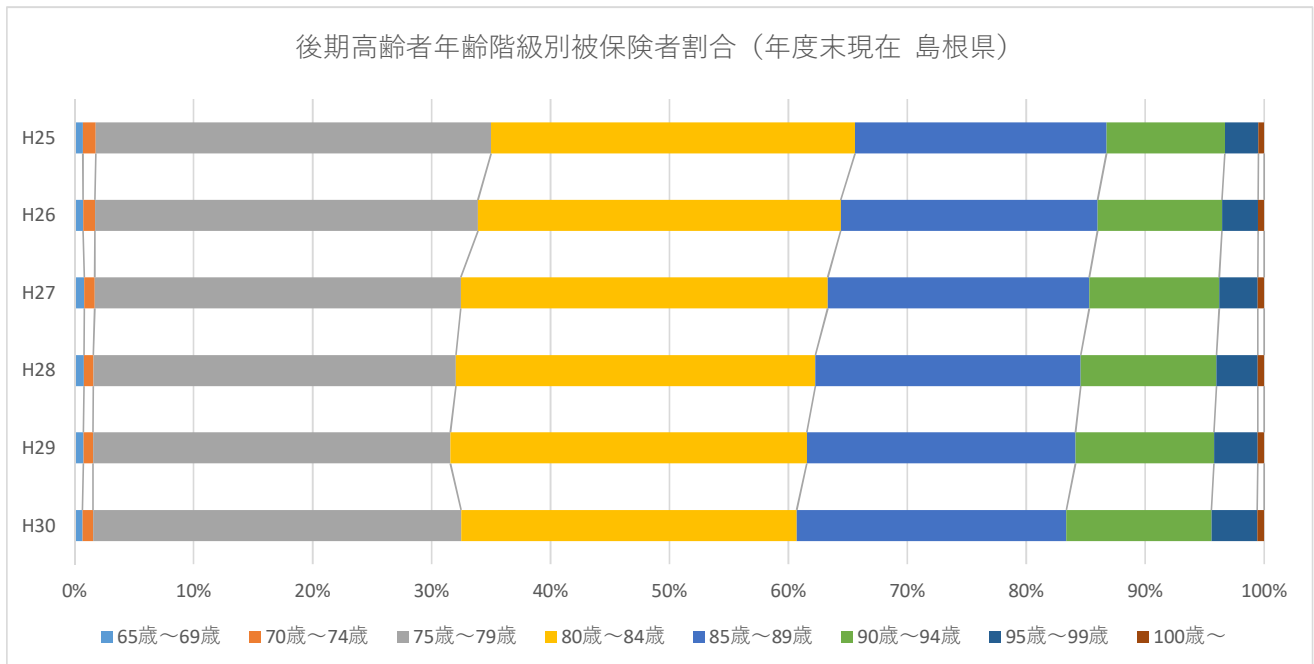


(2) 後期高齢者医療

後期高齢者医療の被保険者もより高齢な年齢階層の割合が高くなってきている。1人当たり医療費のより高い年齢階層の割合が高くなることにより、診療報酬改定による医療費低減効果がある程度あるものの趨勢として1人当たりの医療費は増加傾向になる。

さらに被保険者数も近年は微増傾向にあり、高齢化との相乗効果で医療費は上昇傾向が続いている。

また、後期高齢者医療も全国と比較した場合、年齢の高い階層の割合が高いため1人当たり医療費は高くなる傾向にある。



年 度	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
後期高齢者医療費(千円)	108,690,338	109,775,726	112,542,041	112,479,194	114,741,046	115,156,243
年度末現在被保険者数(人)	124,129	123,596	123,182	123,670	124,096	124,519
被保険者1人当たり医療費(円)	875,624	888,182	913,623	909,511	924,615	924,806

※出典「後期高齢者医療事業年報」

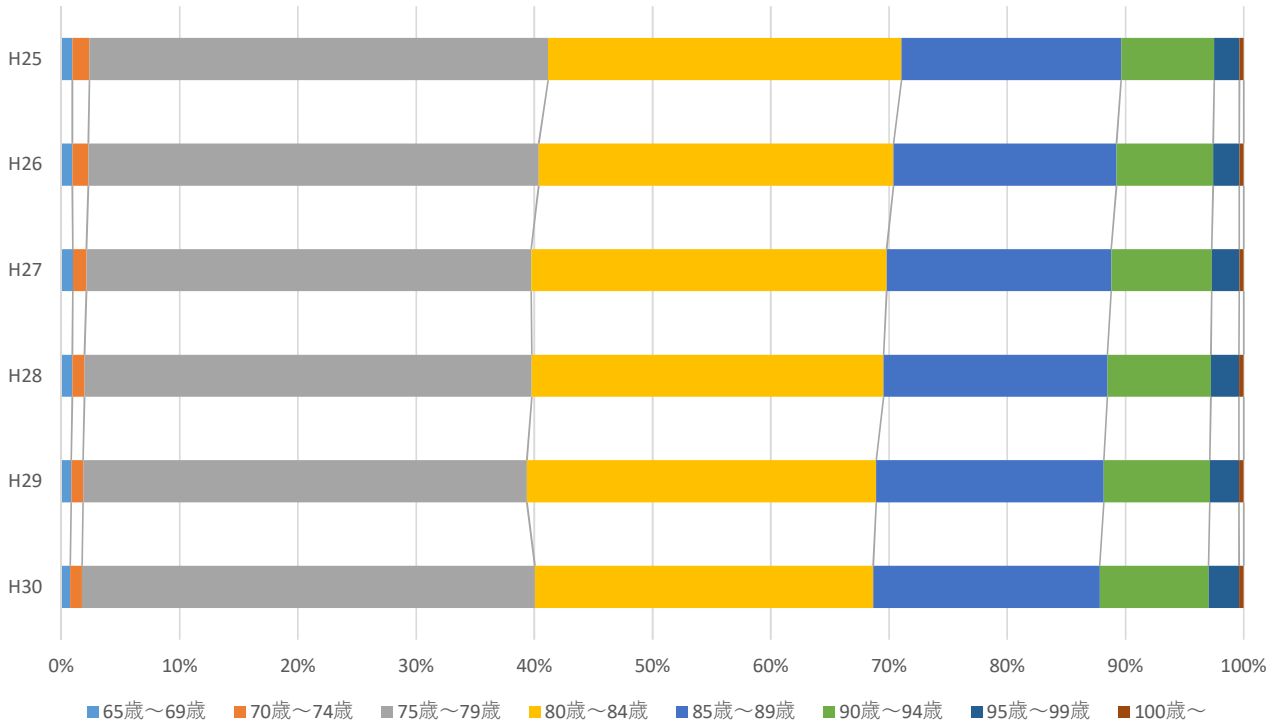
※表中縦線のうち二重線がある年度間で診療報酬改定あり

診療報酬改定

診療報酬改定

<参考>

後期高齢者年齢階級別被保険者割合（全国）



被保険者数(人)

後期高齢者年齢階級別被保険者数推移（全国）

